



時光良造議員



Q 耕作放棄地に対する町の方針は

A 耕作放棄地の発生防止に努めていきたい。
(三村町長、森本建設部長)

本町においても、「人と農地の問題」は極めて重要な課題であると認識している。この問題を解決するため、本年9月に新宮地区において説明会を開催して、プランづくりを始めた。
地域農業の将来の見通しをたて、担い手が確保されない場合は、農地中間管理機構の活用などの検討も行っており、プランに位置付けられると様々な支援措置もある。
今後、農地の集積化を推進するため、他の農業振興地域に対してもこの制度の説明会を開催するなどして、耕作放棄地の発生防止に努めていきたい。

耕作放棄地の発生防止、解消の抜本的強化として農水省は、中間管理機構の整備を推進しているが、町としての方針を問う。



▲横ヶ迫交差点付近

Q 今後の「県道矢野安浦線」の整備計画は

民法正則議員

A 今後も様々な機会を通じ、川角工区の早期完成を強く要望していく。
(森本建設部長)

現在、県において、火の原交差点から郵便局前までの約800mの4車線化と、郵便局前から呉地までの約360mの暫定2車線のバイパス事業が、川角工区として実施されている。
これまで火の原交差点から川角交差点までの約220mの4車線化が完了しており、現在は、川角交差点から呉地までの間の用地取得に鋭意取り組んでいる。
今後は、川角工区の整備を加速していくことが必要であり、先般、町長が知事に直接会って、整備促進の要望を行ったところである。

県道矢野安浦線は、熊野黒瀬トンネルが開通して黒瀬方面は走行しやすくなった。
しかし、広島方面は、横ヶ迫交差点付近まで拡幅された後、約4年間そのままであるが、今後の整備計画は。

川角交差点付近▶

Q ゴミの不法投棄撲滅対策

A 今後も地域との連携、啓発に努めたい。
(清代民生部長)



ゴミステーションへの不法投棄防止策として、ゴミの正しい出し方やゴミ出しのルールを町広報に掲載している。
また、不適切なゴミについては、ゴミ分別イローシールを取り残す際に貼付け、マナー向上の看板を取付けるなど、適正にゴミが出されるよう意識啓発に努めている。
不法投棄等の防止策としては、早朝、夜間に林道や農道等周辺部の特別警戒を月2回、またゴミステーションの巡回を平日は毎日午前中と水曜日の午後実施している。

ゴミや産業廃棄物の不法投棄は後を絶たない。中でもゴミステーションに投棄する無秩序なゴミに、周辺住民は困惑している。
不法投棄撲滅のための手段と不法投棄されたゴミ処理はどうしているか。

Q 保育料算出基準変更に伴う負担増加家庭への緩和措置を

沖田ゆかり議員

A 激変緩和措置を設ける予定で検討している。
(三村町長・清代民生部長)

4月から開始される「子ども・子育て支援新制度」では、国が定める水準を上限に、市町が保育料を定める。
本町では、これまでと同様に子育て世帯への負担軽減を図るため、国が示す公定価格の給付限度額を上回らないようにするとともに、就学前児童が複数いる世帯は、2人目を半額、第3子以降を全額免除とする。
また、算出の基準が所得税から町民税の所得割に変更されることになり、この改正で保育料が大幅に増額する方については、来年度限りではあるが激変緩和措置を設ける予定で検討している。

保育料の算出基準が所得税から住民税へ変更する。
これにより大幅に負担が増加する世帯に対する緩和措置は検討しているのか。

Q 認知症予防対策に検診と予防教室を



山野千佳子議員

A 予防を含め認知症施策の拡充は、非常に重要であると考えている。
(三村町長・清代民生部長)

また、各地区のサロンで、認知症に対する講座やタッチパネルを使った簡単なスクリーニング検査や運動機能チェックを定期的に行うなど、認知症予防活動の取り組みを広めていこうと考え、今年度、神田地区でモデル事業として取り組んでいるところである。

町民の約3割が65歳以上であるが、高齢者が認知症にならないよう早期発見、早期治療を行うため具体的な方法は考えているか。